

東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会 第9回市民公開講座

小児・AYA世代がんの基礎知識

～妊孕(にんよう)性温存とがんゲノム～

教育・医療・行政関係者、一般の方など、どなたでもご参加いただけます。

「妊孕性温存」・「がんゲノム」という言葉を聞いたことはありますか？

- 「妊孕性」とは、「妊娠するための力」のことをいいます。がん治療において、妊孕性の機能が低下してしまい、治療後に子供を授かることが難しくなる場合があります。近年、不妊治療の技術を応用して、治療後の妊娠・出産の機能を治療前に残す「妊孕性温存」という方法が普及してきました。
- 「がんゲノム」とは、がん細胞に生じている遺伝子の変化を調べ、その特性に合った標的治療薬（効きやすいと考えられる薬）の選択に加え、有望な臨床研究や治験をどこで受けられるのかについて探索する個別化医療のひとつです。

「妊孕性温存」と「がんゲノム」は、小児・AYA世代（思春期・若年成人）がんにおいて大切なテーマとなります。

それぞれ専門の医師を講師に招き、基礎的な知識についてお話いただきます。

皆様のご参加、心よりお待ちしております。

オンライン講義形式 / 事前申込必要 / 参加無料

【プログラム】

13:00～13:50 「妊孕性温存に関する基礎知識」

東京医科歯科大学病院 周産・女性診療科 准教授 石川 智則 先生

13:50～14:00 「生殖機能（妊孕性）温存に関する都の取組について」

東京都福祉保健局医療政策部 歯科担当課長 田村 道子

14:10～15:00 「がんゲノムに関する基礎知識」

東京大学医学部附属病院 小児科学教室 教授 加藤 元博 先生

日時

2021年11月14日(日) 13:00～

申し込み

右下のQRコードからアクセスして、必要事項を入力してください。

【申込期限：2021年10月31日まで】

※講義視聴に関するURLは登録いただいたメールアドレス宛に送付します。

主催

東京都福祉保健局

東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会

後援

(公社)東京都医師会 (公財)がんの子どもを守る会

(NPO)日本小児がん研究グループ (JCCG)

(一社)AYAがんの医療と支援のあり方研究会

(認定NPO)シャイン・オン・キッズ

問合せ

東京都立小児総合医療センター 庶務課企画担当

電話 042-300-5111 (代表) 平日 9～17時

